

式 辞

本日ここに、大阪府教育委員会、大阪府議会、豊中市教育委員会、豊中市立各中学校の校長先生方を始めとする多数のご来賓、及び多数の保護者のご臨席のもと、大阪府立桜塚高等学校 第六十五回卒業証書授与式を挙行できますことは、誠に慶びにたえません。ご来賓の皆様方には厚く御礼申し上げます。

保護者の皆様、本日めでたく卒業の日を迎えられましたこと、衷心よりお慶び申し上げます。幼き頃からの日々、本校に入学されてからのこと、過ぎていった時間と記憶を引き戻されました時、新たに様々な感慨がわいてこられるのでは、と推察いたします。

本日ここに普通科三百五十七名について、卒業を認定いたします。3年生の皆さん、ご卒業本当におめでとう。

創立七十五周年を迎えた本年度は、皆さんを取り巻く環境も大きく変わり、また変わろうとしています。アメリカ、ロシアでは大統領選挙が行われ、中国、韓国、そして日本でも国の指導者が交替しました。本校においても、教科ごとになっていた職員室が大職員室に生まれ変わり、恵風苑、恩露園も尚和会の皆様をはじめとする多くの方の御支援の下、改修され景観も機能も格段に向上しました。週二回の七時間授業

がはじまり、部活動終了時刻も一定になりました。

この一年だけでなく、三年間を振り返っても日本社会、世界の激変期にあたり、大人である私たちも変化に応じるのに苦勞したことは正直なところですよ。

十八年前、ちょうどあなた方が此の世に生を受けた頃、日本社会は阪神淡路大震災に遭遇しました。

あなた方が一年生を終えようとする二〇一一年三月十一日、東日本の人々に、最大級の地震と津波、そして「原発事故」という未曾有の災難が降りかかりました。私は自分が生きている間に阪神淡路以上の大災害が再び日本を襲うとは、考えでもいませんでした。全く不明をはじるところですよ。

あなた方の中からボランティアで岩手県を訪れた人もいます。それをきっかけとして、昨年八月岩手県立大槌高等学校との間に「さくら協定」を結ぶというところまで発展し、2年後の今日も、被災地ははまだ復旧復興が程遠いという現実を私たちは知っています。

あなた方は、自治会として義援の募金、書道選択者は寄せ書きや各種作品を寄贈してくれました。何ととっても壺千人を越える生徒や教職員皆で折った八千羽の「折り鶴アート」は、横三メートル、縦一メートルを越える大きな芸術作品となり、あなた方の想いを載せて、今、大槌高校の玄関に飾ら

れています。

この被災地とのつながりに際して、多くの関係者があなた方を支援していただきました。豊中市関係機関、尚和会、桜塚として大槌高校との縁を後押ししていただいたのです。

今後、「さくら協定」の縁で結ばれた両校の縁を引き続き大事にしながら、高校生という若い世代の絆をより確かにし、より良く次代につなげてまいりたいと考えています。

今日、桜塚高校を巣立っていかれようとする皆さん。

あなた方は諸先輩や地域の皆様方の期待に応えて、こころ優しく思いやりの気持ちで三年間を見事に過ごしてこられました。

桜塚高校における三年間は、体育祭、文化祭などの行事と授業、部活動に彩られていました。あなた方は、それぞれの場面で一所懸命取り組んできました。一年生から二年生、部活動の主軸となるにつれ、責任感と戦いながら文部両道を体現し成長しました。二年生の冬、北海道と東京DLへの修学旅行、強行軍ではありましたが充実感たっぷりの思い出となりました。そして三年生、自覚と経験が一、二年生を引っ張るリーダーとしての資質を大きく伸ばし体育祭や文化祭を見事に成功に導きました。大学進学についても、今年もまた、大いに健闘してくれています。

地域の皆様から、公立高校にとって最も大切な「信頼」という言葉をいただいています。多種多岐にわたる豊中市や地域の皆様との連携事業で「大阪府青少年賞」や「こどもさわやか賞」という高い評価をいただいたのもあなた方すべての力の結集の成果です。

あなた方一人ひとりが、将来、どのような職業を選択されようとも、このように桜塚高校三年間で培った心と体と才能の成長・成果は、あなた自身の内に在る思い出と共に消えることはありません。

すべてが糧となるはずです。明るく、楽しく、前向きにやっとうまくいったことも、うまくいかず悩み苦しんだことも、卒業までのすべてを糧として、あわてず、あせらず、あきらめず、生きていくと信じています。

来たる三月二十五日、私は大槌高校へ行つてまいります。「さくら協定」を記念した「桜」を「植樹」するためです。その記念の証の「桜」は本校庭園にも四月に「植樹」する予定でいます。

この桜はあなた方の卒業記念でもあるうと思えます。互いの交流と、支援の心が末永く続いていくこと、東日本の復興とあなた方の成長をこの桜が見守ってくれるのでは、と考えています。

保護者の皆様、本校を支えるすべての方々と共に今後とも桜塚高校を支えていただきますことお願い申し上げます。

卒業生のみなさん、

昭和二十三年以来愛された女子の制服はあなた方が最後になります。

した。多くの女生徒があこがれ身に付けた制服は、時代及びあなた方と共にこの学校を去る事になります。思い出と共に大事にしてください。

あなた方を迎えた多くの桜は、今日もあなた方を静かに見送ってくれます。光であり、水であり、栄養となってくれたご家族、友人、先生に感謝と尊敬の念を今後も持ち続け、こんどは、あなた方自身が大きな桜の樹となって、廻りの人や母校をおおい、支えて下さい。

一〇年後、二〇年後、あなた方ひとり一人が、様々な美しい鳥の飛び立つ一本の大樹となって立っていかれることを期待して饞けの言葉とします。

平成二十五年二月二八日

大阪府立桜塚高等学校

校長 小山 正辰